

臨調・行革粉碎！ 三里塚ジエット闘争勝利！

国鉄労働運動破壊の尖兵=動労「本部」革マル弾劾。

4月 船橋市議選、
中江昌夫候補の必勝
へむけ全力疾走へ！

「1人5票獲得」
運動を強化しよう！

推せん候補の全員当
選で、反動中曾根内
閣を追いつめよう！

市町村議推せん候補

成田市=北原鉱治
習志野市=山野井昭三

銚子市=佐藤新治
勝浦市=鈴木治資

鎌ヶ谷市=網野博光
館山市=田沢勝信

浦安市=渡辺一男

旭市=神子功

小見川町=井上千明

長南町=志鎌定彦

大原町=荒井正

九十九里町=鈴木美好

富里村=増田茂

千葉市=小川義人

中堀きみ子

訂正とおわび

『日刊』第一二五九号の「鹿鉄局での処分」に関する記事中、処分通告日付と人数に誤りがありました。正しくは1月21日に、6名の組合員と5名の管理者に処分です。なお「門鉄局での勤務時間内入浴を理由の不当処分」と伝えられます。

ナツバ服・ヘルを「仮面・看板」にさせてはならない！

つい数カ月前、全労働者の眼の前であれだけおおっぴらに次から次へと裏切り、「臨調・自民党・国鉄当局と酒席談合」し、「太田労政の尖兵」「第二鉄労」の名をほいままにしてきた彼らが、今、口を開けばヌケヌケとこんな言葉を吐いているのだ。断じて許せない！

まず第一に、(裏面掲載の『証拠資料』を見るまでもなく)この間の彼らの裏切りの事実は一点のくもりもなく明らかではないか。又、「共闘関係を一方的に破壊し、裏切った者」こそ他ならぬ動労「本部」革マルの方であり、居直りもはなはだし。

第二に、更に許せない重大な事は、自らが早々と屈服し裏切り妥結したというにとどまらず、必死で闘い続けている国労や動労千葉の闘いを「挑発主義」と口汚くののしつて背後から襲いかかり、目的意識的に闘争圧殺の敵対行動をくり返していることである。それは「57・11ダイ改」闘争を例にとってみても、「動労の仕切り以上の内容を国労や動労千葉に与えたりしたら承知しないぞ」と当局に申し入れたり(11月12日)、「上越新幹線一番列車をスト破り運転で保障するから、万全の警備体制をとって動労乗務員を保護してくれ」と権力・当局に頼みこみ(11月13日)、又一方で、総評が国労スト支援を決

貴組合とわが動労東京地本は、以上の立場を基本として様々な障害をのりこえつつ、国鉄労働者の大同団結をめざして四労組共闘の確立のために奮闘してきたと思います。しかし、ブルトレ添乗旅費問題や五七一二ダイヤ改訂期における貴組合の独善的で排外主義的対応は現情勢のなかにあっては、国鉄労働者の利益を保障するものではなくまして、労働者の階級的団結をよりいっそう打ち固めるものとはなりません。(抜粋)

「日和見・裏切り」をこえて、「闘う労働者を襲う集団」へと反動的に純化『申し入れ』は言う。

『日刊』第一二五五号で明らかにした通り、首都圏を中心につづかれた動労「本部」革マル反動分子らによる、国労組合員へのつるし上げ的組織破壊攻撃は、国鉄労働運動破壊に全体重をかけて襲いかかっている敵階級の意を体した許すべからざる反労働者的犯罪行為である。そのための「口実づくり」として昨年暮、国労あてに送りつけられた動労東京地本委員長・松崎明名による『公開討論の申し入れ』なるものの内容は、まさに怒りなしには読むことはできない恥知らずな居直りであり、国労と戦闘的国鉄労働運動に対する襲撃＝解体宣言に他ならない。

松崎明の『申し入れ』と 国労襲撃の反労働者性

日刊 動労千葉

83, 2, 7

No. 1260

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)一九三五(六)(公衆)〇四七二(22)七二〇七

歴史の教訓——ナチスの果した役割り

一九三〇年代を前後する激動のドイツの階級闘争の歴史が重要な教訓を伝えている。危機と激動の深まりの中で、既成革新勢力が無力をさらしている状況について、「ドイツ社会主義労働者党」という、いかにも「新しい社会主義・革新勢力・労働者の味方」であるかの仮面をつけたヒットラーが抜群のペテン・謀略・暴力を駆使して、労働組合内にも急激に勢力をのばしていった。しかし現実に彼らナチスのやった事は、「國の危機の前には労働者のエゴを棄てよ。スト絶滅。働く！」と叫んで権力と一体となって、闘う労働者・労働組合を背後から襲撃して次々と暴力的に解体し、デマ宣伝や謀略を百遍くり返して、『眞実』にすりかかるやり方で「國の危機を救い、よく働く労働者」の御用労働組合につくり変えてしまうことを通して戦争体制づくりを行い、ついにはあの残虐きわまりない大虐殺と侵略戦争へと全世界をひきずりこんでいったのである。これが「ドイツ社会主義労働者党(略称ナチス)」という看板と仮面のもとで行われた歴史的事実なのである。

今日の動労「本部」革マル反動分子の動労千葉や労への反労働者的襲撃は、「労働組合」の仮面をつけ、闘う労働組合を権力と協力して解体しようとする「現代のナチス」の役割を果していふと言わざるえない重大な問題を全労働者につきつけている。(続く)

全組合員・家族団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

資料 その2

「われわれ動労東京地本は、…国鉄労働者の階級的利益を具体的に保障していく方向で対処してきたと確信しているところであります。…」（「国労への公開討論の申し入れ」より）…と、松崎 明君。いやはや、口は便利なものだ…。

しかし、動労本部革マルの裏切り行為の

事実は事実だ！

（1982年 1月～12月）

「現協」改悪にまつ先にとびつき、職場闘争を圧殺する動労「本部」革マル。

①最初から、現協破壊攻撃を受け入れるつもり。又も、「動労＝鉄労」連合だ!!



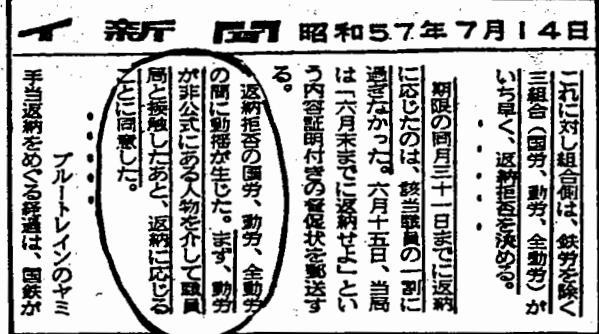
まつ先に、「当局案」（=職場交渉権の完全骨ぬき、当局の一方的通告の場）を一字一句の修正もなく受け入れて妥結。（動労妥結）十二月一日午前一時。）そして、動労が鉄労に對して「早く妥結してくれ」と説得に当った結果、一日朝になつて鉄労が、ついで午前九時半に全施労が妥結した。職場の決起・活性化を鉄労以上におそれてゐるのが動労「本部」分子であることを、雄弁に物語つてゐる事実である。

（1982年 10月～11月）
「57・11ダイ改」で第2鉄労的大裏切り！

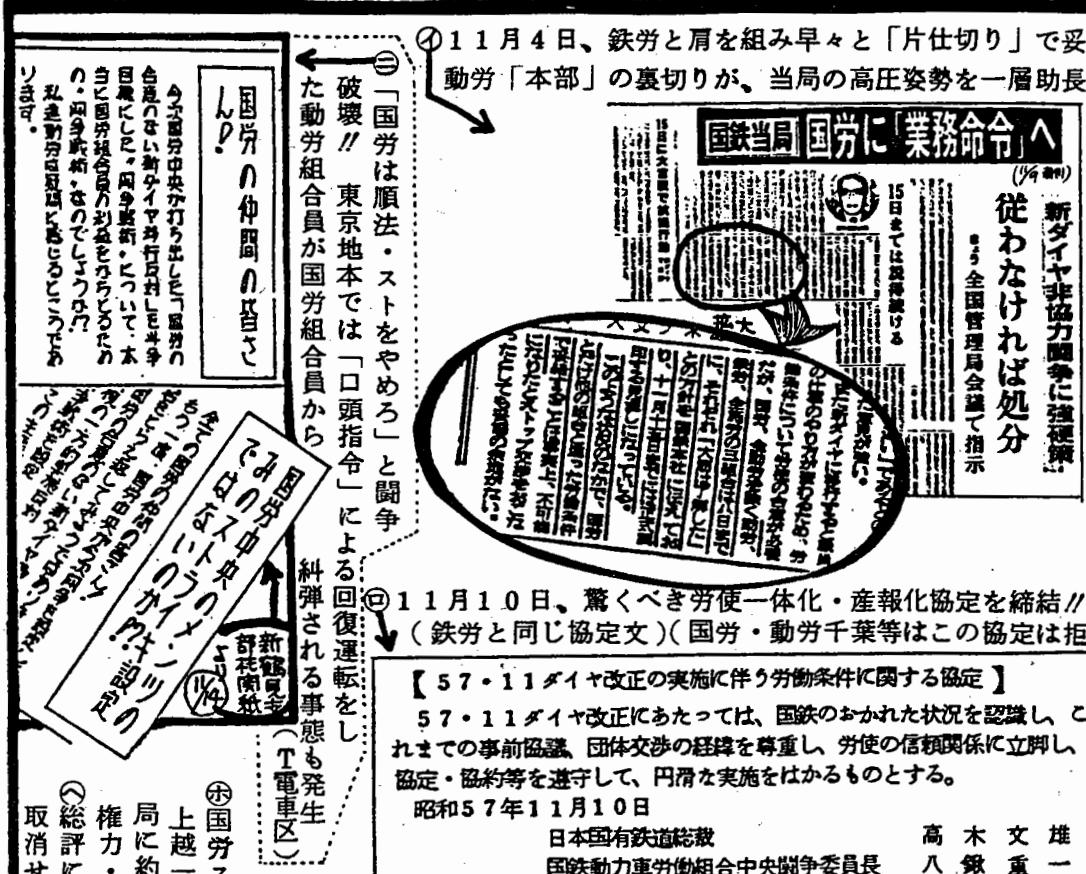
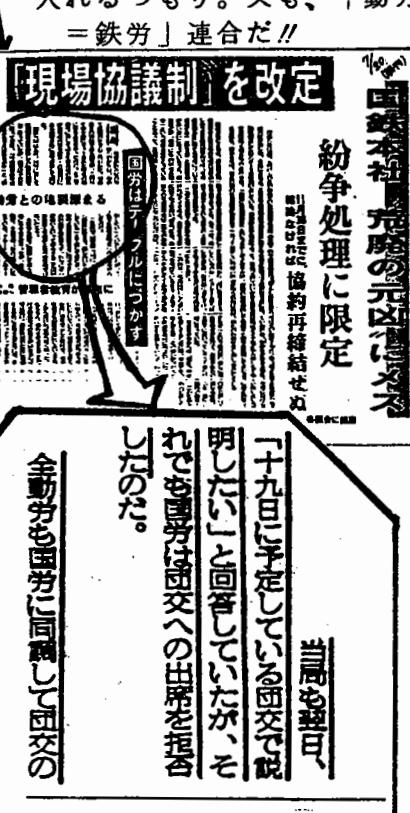
権力・当局に、国労・動労千葉への弾圧をたのみこむ動労「本部」革マル。

（一九八二年三月～六月）
臨調 II 自民党 II 国鉄反動太田労政のしもべに転落した動労「本部」革マル II 松崎明。

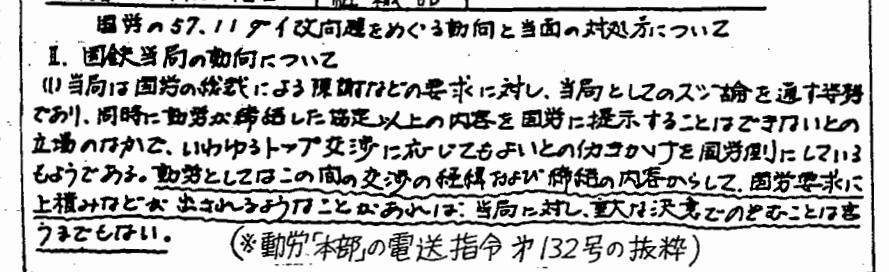
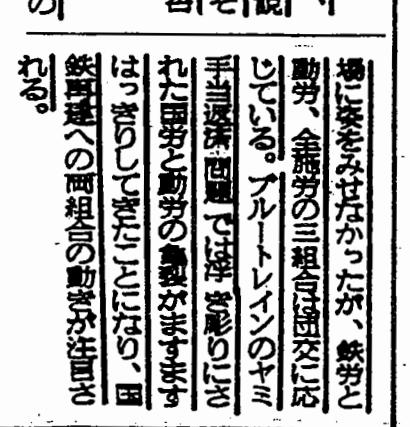
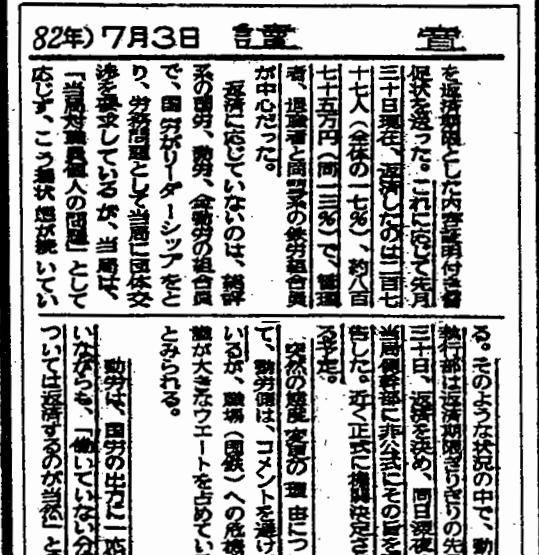
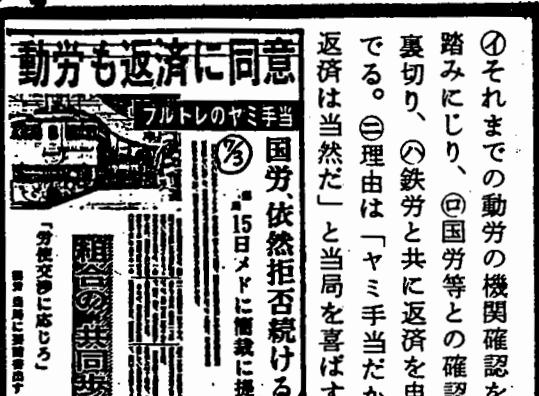
既得権剥奪攻撃の突破口として攻防の最重要焦点となっていた「ブルトレ問題」での動労革マルの裏切りはかく行われた。



●自民党、国鉄当局と卑屈なゆき着IIゴルフ・酒席談合
ツキード汚職議員加藤、国鉄本社職員局長太田、動労東京地本委員長松崎明。●談合の場所およ
び回数II銀座・六本木の料亭・クラブで数回。



②11月4日、鉄労と肩を組み早々と「片仕切り」で妥結。
動労「本部」の裏切りが、当局の高圧姿勢を一層助長。



（一九八二年六月）
組合間の信義なで平氣で裏切
り、既得権全面返上を当局に誓
約した動労「本部」革マル。

ブルトレ旅費返済の大裏切り！